

2020年9月7日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 石田 健一

パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト
(開発調査型技術協力)
フィージビリティスタディ/ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2020年8月3日(月) 14:00~17:17
- ・ 場所：Teams 会議
- ・ ワーキンググループ委員：石田委員、谷本委員、日比委員、山岡委員
- ・ 議題：パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト(開発調査型技術協力)に係るフィージビリティスタディ/ドラフトファイナルレポート案についての助言案作成
- ・ 配付資料：
 - 1). 【DFR(EIAを除く)】パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト(開発調査型技術協力) FS/DFR
 - 2). 【EIA】パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト(開発調査型技術協力) FS/DFR
 - 3). 【SC案助言対応表】パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト(開発調査型技術協力)
 - 4). 【回答表】パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト(開発調査型技術協力) FS/SC案
 - 5). 回答表
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第116回委員会)

- ・ 日時：2020年9月7日(月) 14:00~17:22
- ・ 場所：JICA本部(1階111会議室およびオンライン会議)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 常時満水位および設計最高水位等の定義を示し、図を付してそれらの水位の関係を FR で説明すること。
2. 低平地大規模農家および丘陵地家族農家の代表的な営農モデル毎に、標準経営農家を対象とした財務評価を行い、その内容と得られた結果を FR に記述すること。
3. 本事業の実施によって低平地の大規模農家のみならず、丘陵地の家族農業にも十分な恩恵がもたらされる見込みであることを、その理由とともに FR の結語にも記述すること。

環境配慮

4. 既設のヤシレタダム建設事業での生態系への影響に関して、本事業で追加的な負の影響が生じないことを FR に記述すること。
5. 農牧畜業が気候変動に与える影響の大きさ、特にパラグアイの農牧畜業が GHG 排出量に占める割合や経済における重要性に鑑み、本事業の間接的な気候変動影響について再評価し FR に記述すること。

社会配慮

6. 水利組合ならびに今後新設される灌漑排水部署への研修においては、水利用管理における合意形成ならびに行動変容を促す研修項目を加えること。

以上